長期欠席・不登校に係る　　　　　　　　　　　　　　　年　　月　　日（　　）

記入例２（中学生）

**「ステップアップ・支援シートVer.2」**

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 平常 | **状態０** | **家　　　　　　　　　庭** | 学校  集団生活を意識して | | | | | | | | | | | | **教　　　室**  **↓** |
| 遅刻  欠席 | **状態１** |  | | | | | | | | | | **自立応援室・保健室**  **（場所を分ける）** |  |
| 自立応援室・保健室  又は欠席半分 | **状態２** | 学校以外の居場所 | | | |  |  | 学校復帰を具体的に模索 |  | **放課後登校**  **（時間・場所を分ける）** |  |  |
| **教育支援センター** |
| **フリースクール**  **公民館** |
| 学校以外の施設へ | **状態３** |  | |  | | 目標とする居場所へ向けた矢印 | | | | | |
| **他** |  |  | |
|  |
| 外出○ | **状態４** |  | **外出**  一歩外へ | 「現状」  ・欠席することもあるが、担任の働きかけにより、学校へ登校した際には自立応援室で過ごしている。  ・仲のよかった友人とお互いの勘違いからトラブルになり、教室へ入りづらくなっている。  ・クラスの中に話ができる友人はいる。 | | | | | | | | | | |
| 外出× | **状態５** |  | | | | | | | | | | | | |
| 引きこもり | **状態６** |  | | | | | | | | | | | | |
| （本人の思い）  ・友人との関係がまだ気になり、教室に戻りづらい。  ・自立応援室で過ごす時間も楽しい。 | | | | | | | | | | | | | | | |
| （保護者の思い）  ・学校へ行かせたいが、何か言うと反抗するため、押し出しができない。現状、学校には行くことができているので安心はしている。 | | | | | | | | | | | | | | | |

○対応や支援のターゲットと具体的な支援

＊A・B両方の視点で、誰が、何をきっかけに、いつ、どこで何をするのかを具体的に考える。

|  |
| --- |
| A　長期欠席・不登校の要因や背景への対応　→　専門家や関係機関とも連携して  　　　・本人要因　　・家庭要因　　・学校要因  B　休みの継続や登校のしにくさ（本人）への対応  　　　　　　　　　　　　　→　本人の「次のステップに進みたい」を引き出して |

＊どのような状態であっても、学校は定期的な家庭訪問を行い、児童生徒とのつながりを切らない。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 対応 | 誰に | 誰が | 「支援策」何をきっかけに、いつ、どこで、何をするのか |
| A | 学級  友人  保護者 | 担任  ・  学年  主任  担任  SC | ・支援対象生徒の現在の状況や、部分的に授業に参加する可能性があることを伝え、自然な形で接するように指導。  　＊教科担任にも同様に伝え、連係できるようにする。  ・トラブルのあった友人に対して、本人との関係性を確認。解消に向けた働きかけを行う。  　＊担任がきっかけづくりをする  ・保護者の子育てに関する悩みや、今の困り感を聞き、学校と共有する。また、子供との関わり方について助言する。 |
| B | 本人 | 友人  担任  自立  応援室担当  SC | ＊**現在の居場所**での支援「**Push**」と、**目標とする居場所**からの支援「**Pull**」の両方の視点で支援内容を決定して記入すること。＊説明資料参照  ・休み時間に自立応援室で話をする。話の中で学級へ誘う。  　（誘うタイミングは担任と相談）（Pull）  ・友人からの誘いと並行して、１時間程度の可能な範囲で教室に入ることを提案する。（Pull）  ・時間割の中から教室に行きやすい時間を一緒に考える。（Pull）  ・気持ちが苦しい時はいつでも自立応援室に戻れることを伝え、部分的な教室復帰から提案する。（Push）  ・面談の機会を設け、友人や保護者、学校への思いを聞き取ることができるようにする。 |

長期欠席不登校対策に係る「ステップアップ支援シートVer.2」について（説明）

**１　シートの目的**

　　　対象児童生徒の現在の状態と居場所から、段階を一つでも上げるための支

　　援策を検討するツール。

**２　シートの活用について**

・　視覚化された居場所が示されたシートを学年会やケース会等で共有する。

・　「誰に対して」「誰が」「何をきっかけに」「いつ」「どこで」「何をするの

か」を具体的に検討する。

・　長期的な支援策ではなく、***「一ヵ月間、一学期間等短期的な支援策の検討」***

をする。

・　過去の欠席日数や家庭の状況等の情報が必要な場合は、アセスメントシー

トを併用する。

・　検討したシートは経過も含め、変容を後から確認出来るよう、データ又は紙媒体で保存する。

・　次のステップの支援策を検討する場合や支援がうまくいかず、他の支援方法を検討する場合は別のシートを使用する。

**３　活用方法の手順**

**「目標とする居場所の設定」**

・　シートの左側の表に現在の状態と居場所を蛍光ペン等でチェックする。

　・　現在の居場所から目標とする居場所へ矢印を引っ張る。矢印は複数あっ

てもよい。

　・　シート左側の「現状」には、本人の現在の状況や欠席の要因・背景を記入する。また、本人の趣味や特技、友人関係、関係機関等とのつながり、会議の中で出たキーワードとなることなども自由にメモする。

**「本人および保護者の思いの確認」**

・　現在の状況に対する本人及び保護者の思いを記入する。

　・　学校が立てる支援目標（短期）と保護者・本人の思いをリンクさせる。

**「Ａ・Ｂ二つの視点から、目標とする居場所へ向けた具体的な支援策の検討」**

◆A・B二つの視点

　◆A・B二つの視点

A対応：長期欠席・不登校の要因や背景への対応

B対応：登校のしにくさ（本人）への対応

**＊支援策は支援対象者の状況によってA、Bのどちらかだけになっても構わ**

**ない。**

・ 下にある「支援の為のリソース（参考）」に記載している、学校内外で考

えられるリソースの中から、支援対象者にとって有効と思われるものを使

って支援策を検討し、シートの右側に記入する。

・　B対応の支援策を検討する際には、Push・Pull両方の視点からのアクショ

ンを相互に連動させる。

Pull（目標とする居場所からの支援）

Push（現時点の居場所からの支援）

・　曖昧な支援策ではなく、具体的に「誰に対して」「誰が」「何をきっかけに」

「いつ」「どこで」「何をするのか」を検討する。

**４　その他**

・　担任だけが関わるのではなく、関係ある教職員や関係機関等が有効に関わ

る。

・　支援シートに記載している居場所や下記の支援の為のリソースは、あくま

でも参考である。地域によって実態が違う為、学校ごとに変更を加えても

よい。

「支援の為のリソース（参考）」

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 行事等 | ・運動会（体育会） ・学芸会（文化祭） ・修学旅行 ・定期テスト  ・クラス替え　・部活動の大会（コンクール） | |
| 活動内容 | ・学習 ・運動 ・遊技 ・ICT ・その他 | |
| 頻度 | ・毎日 ・週○○日 ・月○○日 | |
| 時間 | ・朝 ・昼 ・放課後 ・○○時間 ・午前 ・午後 | |
| 場所 | 学校 | ・教室 ・保健室 ・自立応援室 ・図書館 ・支援学級  ・グラウンド　・体育館 |
| 学校外 | ・教育支援センター ・フリースクール ・公民館 ・公園  ・放課後等デイサービス　・不登校親の会 |
| 本人の  興味等 | ・部活　・趣味　・特技　・習い事 | |
| 人 | 家庭 | ・父母　・きょうだい　・祖父母　・叔父母　・いとこ |
| 学校 | ・担任　・養護教諭　・管理職　・自立応援室担当教員  ・生徒指導担当　・特別支援Co　・教科担任　・部活顧問  ・登校支援員　・支援員（　　　　　　　）　・友人 |
| 専門家 | ・SC　・SSW　・民生委員　・主任児童委員　・愛育委員 |
| 施設職員等 | ・教育支援センター　・フリースクール　・公民館  ・放課後等デイサービス　・不登校親の会 |
| 関係機関 | ・教育委員会　・市町村福祉部局　・児童相談所　・保健所 | |

**＊「支援の為のリソース」は各校で地域にあるリソースに打ちかえて活用してください。**